

中国語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和6年度の共通テスト「中国語」の受験者は本試験及び追・再試験合計784人で昨年度の741人に比べて43人増加した。「外国語」受験者の0.17%であり昨年度より微増している。今後も大学側がより一層中国語を入試に活用することが求められている。引き続き高等学校で中国語を学んだ高校生が進学に活用できる客観的な水準設定が望まれる。

令和6年度共通テストを以下の3点をよりどころに、また、14ページに記載の8つの観点によって、総合的に検討・評価に当たることとする。

(1) 共通テストは「高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている」試験であるという観点に立ち、学習指導要領「外国語」の目標を重視する。

その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し、問題作成を行う。

(2) 教育現場からの「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題」となっているかについて、従来の「基本的要望」が尊重されているかを重視する。

① 細かすぎる難解な語法を問うことはせず、基本的な文法力を問うこと。

② 長文読解は、高校生になじみやすいテーマを選び、内容が抽象的すぎ、論理的に説明が難しいような出題は避けること。

③ リスニング試験が実施されないことを補うために、また、中国語学習にとって重要な発音の理解度をみるために、ピンインを重視して出題すること。

(3) 令和5年度の問題作成部会の見解を参考とすること。

2 内容・範囲

第1問 A～Cは昨年度と同じく発音の基礎を確認する問題であり、Dはピンインで示された会話文の流れを把握し、抜けている会話文を選択する問題である。リスニング問題を補う問題として、ピンイン学習とともに実際的なコミュニケーションも重視する傾向がある。

第1問	A	B	C	D
計9問	声母	韻母	声調	ピンインによる会話
(計36点)	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)	12点(4点×3問)

A 見出し語の下線部の声母(子音)と同じものが選択肢の中に幾つあるかを選ぶ形式。提示された語句はみな重要語であり、ピンインの表記、発音の理解を問う問題として適切である。

問1 d・tの無気音と有気音の区別を問う問題。見出し語も選択肢も重要語。適切である。

問2 きちんと学習していないと間違えやすい“x”, “s”, “sh”の違いを問うもので適切である。“显着”自体は重要語ではないが、“显得”がわかれば問題ないと思われる。

B 韻母(母音)に関する出題である。見出し語も選択肢も重要語。出題として適切である。

問1 “ao”と“ou”の判別である。適切な設問である。

問2 “uang”, “ang”, “uan”の違いを問う設問で、特に“-n”と“-ng”の判別を含む

良問である。

C 二音節語の声調の組合せを問う問題。見出し語と同じものの数を問う形式である。問1は三声の連続なので間違えやすいが、正答してほしい問題である。問2も適切である。

D 会話文と選択肢共にピンインで示してあり、各問いの会話文、選択肢共に難解な語句はなく、ピンイン学習を重視する出題となっており評価できる。

問1 “利用資源”から何かに使っていることが分かる。選択肢が少し容易と思われる。

問2 会話に出てくる“学习成绩”に関わるものが正答しかないので選択肢の文に工夫が欲しいと思われる。

問3 自然な会話文であり、適切な設問である。

第2問 昨年度同様の出題形式と配点である。

A 適当なものを選ぶ空欄補充の問題。類義語の知識が要求される。選択肢は重要語である。

問1 “那是很～出错的”を「…しやすい」に合う形容詞を選択する問題で、「容易」を動詞の前に置く用法の理解を確認する良問である。

問2 “保持一定的距离”を「できるだけ」行うことを意味する副詞を選択する問題で、適問である。

問3 “正在”の用法を理解し“变化”が現在起こっていることを示す動詞を選択する良問である。

B 類義語を問う問題。「適当でないもの」を選ぶという設問形式は難度が高くなる。選択肢はいずれも重要語である。

問1 “提醒”は「～に指摘する」のように対象を示しながら使用する語であるが、文中には対象が示されていない。対象をとる動詞の知識が要求される適問と言える。

問2 “的确”「たしかに」の意味の副詞の用法しかなく文中に当てはまらない。語の意味だけでなく「動詞+得+～」の基礎的な文法の理解をみる適問である。

問3 “不知道”を修飾する単語の意味用法の理解を確認する問題で、良問である。

C 短文中の空欄に入れる適語を8つの選択肢から2つ選ぶもの。16は「～不住」という「～できない」という用法の理解、17は“新词语”を学んだという結果を表す動詞+“到”の理解を見る適切な問題である。

第3問 和文中訳、中文和訳を通して、中国語の表現力、理解力を測る問題である。設問形式、設問数は昨年度と同じである。難しい単語はなく学習してきた文法事項や語法を活用し、表現内容を考えて思考することで正答できる設問になっている。

A 和文中訳問題で、与えられた8つの単語から4つ選び、並び替えるもので、選択肢の語句も重要語の範囲内であり、文法や語句の用法の理解を確認する問題として適切である。

問1 中国語の文の基本的な構造を理解していれば文を組み立てられる適切な出題である。

問2 可能補語“想不起”，副詞の位置を理解していれば正答できる適切な出題である。

問3 “一～也不一”の用法を使い日本語文の意味を表現できるかを問う良問である。

B 示された和文に相当するピンインで記された中国語文を選ぶ問題で、素直な出題である。

問1 「～なら一すべきだ」という表現ができるかを見る適切な設問である。

問2 日本語の二重否定の表現を理解し、選択肢の文の内容を正確に見る必要があり、適切かつ良問である。

C ピンインで示された中国語文に相当する日本語を選ぶ出題である。

問1 可能補語“尝不出来”と反語表現の理解を見る適切な設問である。

問2 難解な語句は使っていないが、文の構造を理解していないと正答できない良問である。

第4問 A・B共「文章・表」が用いられ、それぞれ複数の言語材料から総合的に判断する融合問題である。

A 二次元コードについての会話文や調査結果に基づき、内容理解の設問に答える問題である。

問1 会話文の内容と一致する選択肢を選ぶ問題で、会話の流れも自然で探求的な内容の問題の導入として適切と思われる。

問2 世界各国の二次元コード使用状況とそれに基づき書かれたレポートから該当する国名を選ぶ問題である。レポート上で比較されている内容を使用状況の数値と照らし合わせる必要がある、思考力を要する点で良問である。

問3 世界各国の二次元コードの活用例が書かれた表の内容理解を見る問題。表内の語は書面で使われる語句が多くなり、よりの確な理解力が求められる。適問であると思われる。

B 大学を高校生に紹介するイベントに関する会話文や校内推薦施設メモ、イベント資料を読み、内容理解や中国語読解と数的処理が融合した問題である。

問1 会話文と一致する選択肢を選ぶ問題で、選択肢も中国語で書かれてあり基本的な文章読解力を試す適切な問題である。

問2 イベント開催に向けて書かれた紹介したいスポットの概要から推薦理由を選択する問題である。正答ではないが⑤は文構造が分かりにくく、理解に時間がかかったと思われる。出題の意図と違う面で時間がかからないよう配慮を求めたい。

問3 会話文を基に表のポイントを計算しながらスポットを選択する問題で、文章理解力と数的処理が融合した良問であるが、Bは図書館と博物館に行けていないことが分かれば選択肢が限られる点は工夫を要する。

第5問 英語に限らずいろいろな言語を使うことの大切さや相手の言語を使うことによって気持ちを通じ合うという趣旨の長文を読み、設問に答える形式。設問数、大問の配点共に昨年同様。

問1 前後の流れから「たとえ簡単な言葉であっても」という句が入ると判断できる。適切な問題である。

問2 国家の首脳がスピーチでその地の言葉で挨拶をすれば会場から“热烈的掌声”が起こるという正答が得られる。選択肢などに工夫が必要である。

問3 見慣れない“无话找话”の語句を後に続く流れから内容を推測できる。思考力を問う良問である。

問4 空欄に入る語句を選ぶ問題で、適当でないものを選択する設問はやや難しくなるが、選択肢に難解な語句はない。文の流れと動詞の用法・理解を試す良問である。

問5 文章中の下線部の理由を問う問題だが、文全体の大意に沿う内容であり正答が得やすかったのではないと思われる。

問6 文中の“实现了一部分”はなぜ“一部分”なのかという問い。“这个愿望”を捉え、後に出る“一种遗憾”と結びつけ文章全体を捉えられるかを見る良問である。

問7 文中の“成果”を問う問題だが、すぐ後に“精神财富”と“物质财富”があり、やや正答しやすかったと思われる。一考を要する。

問8 “至于～就不提了”というフレーズに慣れていなくても文章のテーマ、前後の文脈から判断できる適切な設問である。

問9 空欄に入る適切な語を入れる問題。適切な設問であるが、言いたいことが一貫した流れの文章であるため、正答しやすかったと思われる。

問10 文章全体を的確に読めていれば正答できる良問である。文章の内容理解を問う適切な設問である。

3 分量・程度

(1) 分量

今年度の第5問の長文は33字×34行、約1000字で、文章量は昨年度よりやや増加している。第4問も文章と資料・会話を組み合わせた問題であり、材料から情報を読みとり数的処理も必要である。これは共通テストに移行した以降の全体的な傾向であるが、多くの情報を含む文章を理解し考察する能力を試される。80分の試験時間を考えると、これ以上の量は厳しいと思われる。

(2) 程度

内容的には今年度の設問は、高校生にとって語句や内容において難解なレベルのものは多くないが、第4問・第5問の文章量については時間とのバランスを考えていただきたい。

4 表現・形式

全体の出題形式を見ると以下の通りである。マーク数も昨年度と同等である。

内容	発音・ピンイン	語句	表現力	複合的な資料の読み取り	長文読解
問題番号	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
設問数	9	7	7	6	10
配点	36点	32点	28点	52点	52点

5 まとめ（総括的な評価）

令和6年度共通テストは、設問形式や内容、単語の選択において高校生レベルの出題が多く、思考力、総合的な判断力を問いながらも高等学校から中国語を学び始めた受験者を意識した出題者の工夫が感じられた。

本試験	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受験者数	574	665	667	625	599	735	781 (+46)
平均点	154.90	150.89	167.41	160.34	164.79	162.76	172.08 (+9.32)

受験者数は増加する傾向を示しており、共通テスト受験者全体が減少していることを考えると、外国語における中国語科目の社会的なニーズは引き続き大きいと考えられ、今後も共通テストの科目として有効に活用されることを希望する。他の外国語に比べ平均点が高いことについては中国語母語話者の受験者が多いことが推察され、あえて難解な語句を使うなどしても、日本の高等学校で中国語学習を始めた生徒の得点が下がることしか期待されない。共通テストは外国語1科目のみで利用されることは少ないため、平均点のみを下げる問題作成は避けていただくことを希望する。

内容的にも「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき、高等学校3年間で学ぶ中国語のレベルを引き続き考慮していただきたい。全体としてはおおむね適切な問題だったと思われる。

今後の出題として全文で述べた点について御考慮いただき、高等学校から中国語学習を始めた生徒たちが「是非受験したい」と思う出題をお願いしたい。